

令和7年度 島根県立石見高等看護学院 学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時：2025年9月18日（木）
2. 開催場所：島根県立石見高等看護学院 会議室
3. 出席者

	氏名	所属	職名	備考
学 外 委 員	梶浦 靖二	益田保健所	所長	欠席
	檜谷 みどり	益田赤十字病院	看護部長	
	熊谷 武美	益田地域医療センター 医師会病院	看護部長	
	中嶋 眞由美	松ヶ丘病院	看護部長	
	細川 真紀	島根県立松江高等看護学院	副学院長	欠席
	鹿野 賢司	石見高等看護学院同窓会	会長	
学 内 委 員	狩野 卓夫	石見高等看護学院	学院長	委員長
	八川 守	々	副学院長	
	三浦 陽子	々	々	
	吉田 真奈美	々	教務主任	
	山田 奈穂子	々	主任看護教員	
	藤田 野乃	々	々	
	青木 美香	々	々	
	河上 葉子	々	看護教員	

4. 会議次第

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 評価委員の自己紹介
- 3) 出席教職員の紹介
- 4) 学校関係者評価委員会の位置付けの説明

- 5) 学院の概要・教育活動等について
- 6) 評価の実施・結果について
- 7) 学院におけるシミュレーション教育の取り組みについて
- 8) 島根県知事来校の報告
- 9) 全体を終えての質疑応答および意見交換
- 10) 今後の予定について

5. 協議内容

1) 委員長より挨拶

令和7年度学校関係者評価委員会の開催にあたり、委員の就任を快くお引き受けいただき、感謝申し上げます。

最近、島根県内では新型コロナの新変異株「ニンバス」が確認されて感染拡大防止に向け十分な注意が必要な時期である。本学院では、7月より学内でのマスク着用は任意としていたが、学生に数人感染者が出ており、当面マスクを着用することとした。本学院の教職員一同、学生が安全で安心な学院生活を送れるよう尽力している。実習病院の御理解と御協力により、看護師養成に必要な教育は着実に実施できているものと考えている。

学校関係者評価委員会は、平成27年度に要綱を制定してから、今回が10回目(10年目)の開催となる。学院とかかわりのある関係機関の皆様は学院の教育活動へのご理解、ご協力をいただき、更なる魅力ある学院づくりに取り組んでまいりたい。

2) 評価委員の自己紹介

それぞれの委員が学院との関係性を踏まえながら自己紹介された。

3) 出席職員の紹介

職員の紹介があった。

4) 学校関係者評価委員会の位置付けについて

学院より、学校評価の流れについて資料に基づき説明した。

5) 学院の概要・教育活動等について

- (1) 学院より、学院の概要、重点目標および医師会中長期計画について資料に基づき説明した。
- (2) 学院より、教務部目標、教育計画について年報・資料に基づき説明した。

6) 令和6年度の評価の実施・結果について

- (1) 学院より、評価委員の活動および自己点検・自己評価の結果について資料に基づき説明した。
- (2) 学院より、「学生による学校評価アンケート」「学生による授業アンケート」について資料に基づき説明した。
- (3) 学院より「保護者アンケート」について資料に基づき説明した。
- (4) 学院より「入学者アンケート」について資料に基づき説明した。
- (5) 学院より「卒業前アンケート」について資料に基づき説明した。

7) 学院におけるシミュレーション教育の取り組みについて

第6回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会での発表報告を行った。

8) 島根県知事来校スライドショーを視聴した

9) 質疑応答・意見交換

外部委員	院外研修や外部の活動は、専門的な知識を習得することはもちろんであるが、社会の人脈の形成や視野の拡大等大きなメリットがあると思う。当院でも意欲に個人差があり動機付けが課題でもある。学生のボランティアも自己成長につながる大きなメリットがあると思うが参加の状況はどうか。
学院	学院では1年生から地域とのつながりがあり、ボランティアも積極的に参加している。しかし学生数も減っているのでボランティアの依頼全てに対応できているわけではない。
外部委員	当院のイベントにも学生6名がボランティアで参加されると聞きありがたい。是非当日はスタッフともしっかり対話をし、当院の良さを感じてもらい、一緒に楽しみたい。
学院	学生は実習で評価される立場から、そこを離れたところで何かを医療職者と一緒にやることで得る達成感があり、スタッフの方から声かけをしてもらうことで喜びを感じるようだ。そのモチベーションが就業に繋がるといいのだが。
学院	ボランティアはどのように募集をかけるのか？
学院	Google クラクルームに掲載し周知している。またクラス担当が学生に声をかけている。募集案件によって参加数の差はあるが・・・
外部委員	新カリキュラムで学んだ学生が令和7年3月に卒業したが、「地域包括ケアシステム」についての学びや地域との繋がりが深まっているか？ 地域を見る力が育っているという評価をしているか？
学院	旧カリキュラムでは「地域包括ケアシステム」そのものをまとめてしっかりと教える科目がなく、様々な科目で部分的に教えている状況だった。新カリキュラムでは科目名として「地域包括ケア論」を立ち上げ、地域包括ケアシステムについて学ぶ科目を作った。システムの具体的な展開の場や方法などを学び各領域にもおとしこんでいる。看護の対象者の地域での暮らしや健康について意識が持てるようになっている。
外部委員	化学療法室など治療を受けながら生活する方の理解を深める実習を受け入れているが、効果的な場所でしっかり学べるように、時間や配置等を考えていきたい。
外部委員	学生さんの実習態度はとても良い。事前学習もしている様子である。中途採用者や中堅看護師に専門領域の看護について学びを深める研修などを勧めても、「今は難しい」と断られることもある。最近は若い職員の学ぶ意欲が減退している気がする。研修参加を促しても参加しない。どのように動機付けをしたら良いのか困っている。学生への指導方法があれば学びたい。
学院	以前、研修で最近の新卒者の就職希望に美容外科が増えてきていると話があった。美容外科に興味があるということもあるだろうが、「仕事内容が楽だから」といった気持ちがあるようだ。

学院	新卒の医師も美容医療を選ぶ医師が増えてきているようだ。循環器、内科、外科などは減ってきている。
学院	学生は「勉強の仕方が分からない」と質問をしてることがある。自分の時間や手間をかけないと勉強の仕方は分からないのだが、それをせずに方法を聞いてくる面がある。努力・手間・時間を費やすことは大事だと3年間で伝えていきたい。
学院	今の学生たちは、時間内にすべきことはそれなりに頑張っているが、自分の時間を使ってする努力はなかなか難しいようだ。もちろんそうではない学生もいるが、両極端の傾向がある印象である。
外部委員	院内研修会でも同様の傾向がある。勤務時間内にどう組み入れるかが課題である。
学院	看護の現場がというより、日本全体がそのような傾向になってきている。
外部委員	病院の研修会でも感じることもある。必要な情報はインターネットですぐ出てくる時代であり、自分たちの考えは古くなっているのかと思う。
学院	最低賃金の引き上げがあったが、病院では影響があるか。
外部委員	パートさんの中には就労時間を短縮してほしいと言う方も出てきたが、そうになると常勤の看護師にしわ寄せがきている状況である。
学院	当学院の新入生の応募について、定員に満たない状態がつづいている。4年大学が増えて3年の専門学校が減っている。新卒の中で4年生大学卒はどのくらいの割合か。
外部委員	10%程度おり、増加傾向である。
外部委員	割合は不明だが専門学校率が多い。
外部委員	70名の中の5名が大卒である。
外部委員	看護助手の中にも数年助手として勤務経験後、看護学校入学希望者がいるようだ。希望者は病院からも送り出したいと考えている。
学院	今年度の入試から社会人枠ができた。職場に社会人入試枠の該当者がおられればぜひ勧めていただきたい。学生の定数確保は、県内看護師数の維持を目的としている。今後も教職員一同努力していく。

10) 今後の予定について

事務局より評価シートの送付の件と、評価の提出期限について説明した。また、本委員会の協議結果を外部に公表するにあたり、氏名、所属を公表する件について再度説明し、了承を得た。